

ヨーロッパの精神障害者の組織の発足の過程

伊 東 香 純

(立命館大学大学院先端総合学術研究科 一貫制博士課程/日本学術振興会)

1 はじめに

精神障害者の社会運動に関する先行研究は、その運動が精神医療福祉の制度や理論、実践に異議を唱えてきたことを明らかにしてきた。精神障害者の世界組織である世界精神医療ユーザー連盟 (World Federation for Psychiatric Users: WFPU) は、世界精神保健連盟 (World Federation for Mental Health: WFMH) から、精神障害者だけが独立する形で1991年に発足した。WFMHは、精神科医やその他の精神医療専門職、精神障害者の合同の組織である。WFPUを結成した精神障害者の重要な出会いの場は、WFMHの世界大会であった (伊東 2018)。精神障害者のヨーロッパ規模の組織であるヨーロッパ精神医療ユーザー・元ユーザーネットワーク (European Network of Users and Ex-Users in Mental Health: ENUSP) も、WFPUと同じく1991年に発足した。しかし、ENUSPは、より大きな組織から独立する形でも、WFPUのヨーロッパ¹⁾支部という形でもなく発足した。このことから、ヨーロッパの精神障害者は、WFPUの会員たちとは異なる連帯の経路をもっていたと考えられる。本稿は、ヨーロッパの精神障害者がENUSPの発足までにどのようにして出会い、連帯していったのかを明らかにすることを目的とする。

ENUSPについての情報としては、組織が発足した後の活動に関しては総会の議事録やニュースレターなど一定量の記録がある。また、それらの資料や関係者のインタビューをもとにした分析もなされてきている。しかし、組織としての発足前に関しては、ほとんど文書資料は残っておらず、研究されてこなかった。本稿では、ENUSPの発足に関わった2名のインタビューを主な資料としてENUSPの発足の過程を記述する。

2 先行研究の検討

これまで精神障害者の社会運動に関する研究は、主に米国と英国の運動を検討の対象としてきた。米国では、

1970年代から1980年代の運動家の出会いの場は、入院していた病院やデイケア施設などであった。各地に同時期に発生した運動をつないだのは、1972年から発行されていたマッドネス・ネットワーク・ニュース (以下、MNN) という新聞や、1973年から1年に1度開催されていた「人権と精神医療の抑圧についての委員会」の会議であったとされる (Morrison 2005: 66-72, McLean 2000: 823-824)。しかし、1980年代後半にはMNNも「委員会」も終わってしまう。これは、「急進的」な主張をする元患者としての立場の運動よりも、政府の資金援助を受けて精神医療の改良に向けた運動をする消費者としての運動が前景化していったことに大きな要因があるとされる (Morrison 2005: 82-85)。また、精神障害を理由とした強制的な治療²⁾の是非をめぐる意見の対立によって、1985年の米国の精神障害者の全国組織を結成しようという試みは失敗に終わった (McLean 2000: 825)。1990年代に入ってから、インターネットを通じたセルフヘルプ活動がおこなわれるようになり、運動の参加者同士が知り合う場が拡大したことが指摘されている (Morrison 2005: 88-89)。英国では、1946年に精神障害者を支援するボランティア組織など3つの組織が合併して全国精神保健連盟ができた。精神保健全国連盟は、1970年代にMINDと名称を変えて、より政治運動に力を入れた組織となっていた。精神障害者の運動は、1971年にパディントン・デイ病院の精神障害者と精神医療に不満を持った医療者がともに始めた組織が端緒であり、この運動は1980年代後半にMINDや精神障害者だけの運動とつながっていく (Crossley 2006)。このように英国や米国を対象とした先行研究では、精神障害者の運動家の出会いの場は主に病院やデイケア施設、インターネットとされてきた。また、先行研究は、精神保健政策に関して主張を同じくする精神医療の専門職と精神障害者が連帯したり、特に精神障害を理由とした非自発的な介入についての意見の対立から組織が分離したりする過程を分析してきた。

このように国や地方といった規模の精神障害者の社会運動のつながり方に関しては、一部の国や地方の運動については明らかにされてきた。他方、精神障害者の大陸

規模あるいはグローバルな規模での活動については、研究の蓄積が少ない。ドリージャー（1989=2000）は、障害種別をこえた障害者の国際組織である障害者インターナショナル（Disabled Peoples' International: DPI）の発足の過程を検討している。DPIは、1981年に医療福祉専門職との合同の組織であるリハビリテーション・インターナショナルから、そこでの議論に不満を持つ障害者だけが独立する形で発足した。発足当初、DPIの運営には精神障害者はほとんど関わっていなかった（Driedger 1989=2000: 130-131）。また、ヨーロッパの精神障害者の運動の中には、精神医療のユーザー・サバイバーは障害者なのかという点について議論があったことが明らかにされている（Barnes 1999: 76; Russo and Shulkes 2015）。つまり、精神障害者の運動家の中には障害者としての活動に否定的な人もいたということである。ここから、グローバルな精神障害者の運動の出会いの場は障害種別をこえた障害者運動以外にもあったと推察される。伊東は、WFPUの発足の過程を検討している。WFPUを結成した精神障害者は、2年おきに開催されるWFMHの世界大会の会場で、自分たちだけの組織を発足させる準備を進めていた。1991年の国際連合（以下、国連）総会にて、本人の意思に反して精神医療施設に拘禁したり精神医学的な介入をしたりするための手続きに関する原則が採択された。この策定過程で精神障害者の意見がほとんど聞かれなかったことは、WFPU結成の重要なきっかけとなった（伊東 2018）。

レーマンは、ENUSPと、精神医療の専門職などがあるヨーロッパ規模のいくつかの組織の活動資金や活動目標の違いを分析している。その歴史の記述は、1991年のENUSPの発足時から始まっており、その前にどのようにして精神障害者が連帯するようになったのかについては注目されていない（Lehman 2009）。ローズとルカスは、ヨーロッパの精神障害者の運動の歴史とENUSPの活動の経緯から、精神保健政策に関する精神障害者の関わり方を分析している。ここでは、ENUSPの総会等での決定事項や、ENUSPが把握している各国の精神障害者の団体の数などについては書かれているものの、どのようにしてENUSPが結成されたのかは明らかにされていない（Rose and Lucas 2007）。ヨーロッパの精神障害者は、WFPUやWFMHとは別の経路を通じて出会い、ENUSPを結成したと考えられる。ENUSPの結成の過程を明らかにすることにより、これまで検討されてきた国や地方規模の運動における国をまたいだ活動という新たな側面を明らかにするとともに、1991年の第1回総会以降ENUSP

に関する研究と接続することができる。

3 方法

本研究では、ENUSP及び関連組織のニュースレターや総会の報告書などインターネットで閲覧できる文書のほか、個人が保管している文書を提供あるいは複写してもらったものを資料として使用する。さらに、2018年7月30日にオランダのヴァンダーメール（René van der Male）、2018年8月2日にスウェーデンのジェスパーソン（Maths Jespersen）にインタビューをおこなった。2人は、ともにENUSPの第1回総会の準備に関わり、総会に出席した。また、ジェスパーソンは、ENUSPや関係組織に関わる多くの資料を所蔵している。ヴァンダーメールのインタビューは、ユトレヒトのエニック・リカバリー・カレッジの事務所にて81分、ジェスパーソンのインタビューは、メルモーのジェスパーソンの自宅にて195分実施した。インタビューの実施にあたっては立命館大学の人を対象とする研究倫理に基づいて倫理的配慮をおこなうとともに、インタビューの文字起こし及び本稿の英訳版に問題がないか2名のインタビューイに確認してもらった。

ヴァンダーメールは、1982年に精神医療を初めて利用した。当時、ヴァンダーメールは、34歳の医学生であった。その後、約3年間、精神医療の利用者として過ごした。ただ、精神病院の中に入ったのはこの時が初めてではなかった。18歳のとき、アルバイトで2カ月間、精神病院の清掃員を務め、鍵のかからないトイレや隔離室の状況に驚いていたという。ヴァンダーメールは、1984年頃からオランダの精神障害者組織である患者組合（Cliëntenbond）に参加するが、初めはそのような活動の意義がわからず、あまり活発ではなかった。1986年、患者組合の会員の学生からスペインのセヴィリアで精神医療に関する会議³⁾があると誘われて、参加した。その会議の最中に泊まっていたホテルで、英国の元患者の活動家からいっしょにネットワークを作ろうともちかけられた。この会議の参加を機に、患者組合やその他の精神障害者の運動に積極的に関わるようになった（interview to van der Male）。

ジェスパーソン（Maths Jespersen）は、1954年生まれで1980年から1981年までの2年間、精神医療を利用していた。ジェスパーソンは、自発的入院の患者として入院していたが、そのときに役に立つと思った治療は一切なかったという。その後、映画会社のプロデューサー

などを経て、1988年からスウェーデン社会精神保健全国組合 (Riksförbundet för Social och Mental Hälsa: RSMH) の地域事務員となった (interview to Jespersen; Mental Disability Advocacy Center 2018)。RSMH は、1967年にできたスウェーデンの精神障害者の組織である。当時、スウェーデンでは、長期入院患者数が36,000人あまりと頂点に達しており、脱施設化促進の1つの切り札としてRSMHは設立された。ジェスパーソンが、関わるようになった1980年代にはRSMHは、150の地域組織に8,000人の会員を抱え、政府の助成金によって約100人の元患者が常勤として雇われる、大きな組織になっていた (Jespersen 2016: 135)。

4 ヨーロッパの精神障害者の運動における各国のつながり

4.1 英国、イタリア、オランダの例

イタリアのトリエステ県では、1970年代後半から精神医療解放運動が活発になり1978年の法律180号によって新規の公立精神病院の設立を禁止するなど、これまでと比較して急進的な方法で脱施設化の政策を推進した。この変革は、世界的に有名になり、多くの人が見学に訪れ、研究会や講演会といったイベントが各地で多数開催されてきた。精神医療専門職などの関係者は、情報交換を目的として1974年に精神医療のオルタナティブのためのヨーロッパ・ネットワーク (European Network for Alternatives to Psychiatry: ENAP) を結成した。1982年には、ENAPの英国支部であるBNAP (British NAP) が結成された。BNAPは、1985年以降の精神障害者だけの組織の結成につながっていく (Crossley 2006: 170-180)。

1985年にWFMHの世界大会がブライトンで開催され、海外から多くの精神障害者が渡英した。このような機会に特に米国とオランダの運動の影響を受けて、1980年代後半から精神障害者だけの全国組織が結成されていった (Campbell 1996: 221)。オランダの患者組合は、各地に支部を持ち、またテーマ別の分科会も持っていた。1980年代には1000から2000人の会員がいる組織になっていた。1970年代からイタリアを訪問して精神医療解放運動の情報を収集するとともに、国際交流の分科会が米国などから患者運動の活動家の訪問を受け入れていた (interview to van der Male)。患者組合の国際交流の分科会にいたヴァンダーガーフ (Wouter van der Graaf) は、1985年のWFMHの大会以降、英国の精神障害者とコンタクトをとるようになり、ノッティンガムで精神障

害者の組織の発足を支援した (van Abshoven 1994; interview to van der Male)⁴⁾。

4.2 スウェーデン、ポーランドの例

スウェーデンのRSMHは、政府の国際開発機構の助成を受けて、ポーランドのワルシャワの精神障害者の組織を支援していた。この活動について、ジェスパーソンは次のように述べている。

私たちのところには躁うつ病の会員がいたんだ。彼は本当に独創的だった。(中略) ルンド市内中を駆け回って、無料の食糧、物品、さらにはトラックまで探してきたんだ。彼が人を見つけてきてくれたお陰で、私たちはトラック代を払わないで済んだ。躁状態のときの彼はそれほどのエネルギーを持っていた。彼はありとあらゆるところを訪ねて回った。何千カ所も回れば、解決策も見つかるさ。(interview to Jespersen)

2週間に1度ワルシャワから果物を輸入するトラックがルンドからワルシャワに行く際、RSMHはその空のトラックに食べ物や衣類を詰めて運んでいた (interview to Jespersen)。

5 ヨーロッパのネットワークの発足

5.1 第1回総会に向けた準備

1988年、ヴァンダーガーフたちは、WFMHに金銭的援助を申請した。それは、ヨーロッパの精神障害者の組織を発足させることに焦点を絞った支援ではなく、広くヨーロッパの精神障害者が交流していくという計画に対する支援であった。1988年、ヴァンダーメールは、英国で自分の精神医療での経験と患者組合という組織について講演するように頼まれた (interview to van der Male)。この講演についてヴァンダーメールは次のように述べている。

おそろしかった。(中略) 勉強になる体験でもあった。もちろん母語でない言語で話したせいもあるのだけど。患者 (patients) について話した。そうしたら、英国のユーザーが、自分を患者と言わないでくれと怒ったんだ。私はなぜかと聞いた。その人は、医学モデルに固執していて、無礼だからだと言った。(interview to van der Male)

このときヴァンダーメールは、英国の運動は大きく発展してすでにオランダの運動の水準を超えていると感じたという。WFMHのヨーロッパ支部は、大きな権力を持っており頻繁に会議を開催していた。オランダの患者組合は、この会議の場でいくつかの国の精神障害者の組織と話をした。ヴァンダーメールは、具体的な国として英国のほか、デンマーク、ドイツ、スウェーデンの3か国を挙げている⁵⁾。ENUSPの第1回総会が実際に開催されるのは1991年であるが、このような活動を通じてENUSPを結成する準備は1988年の時点ですでにできており、その意味では1988年からENUSPは始まっていたと言ってもよいとヴァンダーメールは述べている。1988年についてヴァンダーメールは、FAPI (Feder-action Antipsychiatrie) の結成の準備に言及して、異なる母語をもつ人たちと同じ話題について話すことは、「非常に力強く美しく、癒されるものだった」と述べている (interview to van der Male)。FAPIは、英国のBNAPと同様の組織で、精神医療に批判的なドイツ語圏の人たちのネットワークとして1989年に発足した。発足当初は会議を開催したり出版物を発行したりしていたが、2007年時点で残っているのはメーリングリストだけである (Rose and Lucas 2007: 340)。

第1回目の会議では、各国から3名を招待することになっていた。大きな全国組織が存在していた国については、その組織に誰が出席するのかの判断を委ねた。ジェスパーソンは、非常に大きな組織で「多くの場合に本部を持ち、雇われている人がいた」精神障害者の組織のあった国として北欧、英国、オランダを挙げている。しかし、小さな地域組織しかない国の場合には、当時、インターネットが普及していなかったこともあり、各国の精神障害者の運動の状況を把握して誰を招待すべきか判断するのが非常に難しかったという。ジェスパーソンは、RSMHでワルシャワの組織を支援していたため、ポーランドから2名の参加者を会議に連れていくことに成功した。2人のうち1名はポーランド語のみ、もう1名はポーランド語のほかにドイツ語が少しできるという状態だったため、英語を使って議論された会議の内容はほとんど理解できなかった。しかし、ポーランドからの2名の参加についてジェスパーソンは、「私たちは、[2人が] 来てくれてとてもうれしかった。彼らはパラダイスに来ていた。食べるものがたくさんあった。つまり、彼らはちゃんと参加していたんだ」と述べている。また、ジェスパーソンは、1991年の夏にイタリアでの会議⁶⁾に出席し、その際にベルギーのコーパス (Jan Kuypers) と相部屋に滞在

した。コーパスは、毎日のように厚生省や大統領に手紙を送り活発な活動を展開していたが、「協調の難しい性格」でコーパスの組織の会員はコーパス1人というような状況だった (interview to Jespersen [] 内は引用者)。第1回会議にベルギーから参加したのは、コーパスと別の組織から2名であった (ENUSP 1991: xii)⁷⁾。このように第1回総会の招待者は、大きな組織を伝ったり、日々の活動やイベントに参加した際に出会った人を誘ったりしながら決定されていった。

5.2 第1回総会

ENUSPの第1回総会は、オランダのザンドヴォールトで1991年10月24日から27日に開催され、16か国から39名が参加した (ENUSP 1991: 2) 参加者の詳細については表1を参照されたい⁸⁾。ただし、会議開催の時点ではまだヨーロッパの組織の発足は合意に至っていなかった。ザンドヴォールトは、首都のアムステルダム の西側に位置するビーチが有名な観光地である。そこには高級なホテルがたくさんあるが、10月にはビーチは暗く寒くなりよく雨が降るため観光客はほとんどおらず、格安で宿泊できるため、この場所が選ばれたという (interview to Jespersen)。

総会の議論は25日から開始され、まずは3つの分科会に分かれて議論がおこなわれた。分科会1は情報共有、分科会2は共通の利益の促進、分科会3はヨーロッパ統合の見通しというテーマでそれぞれおこなわれ、ヴァンダーメールとジェスパーソンはともに分科会2に出席し、記録を作成した。分科会2では、自分たちの共通の利益とは何か、何を優先的に扱うべきかが議論された。あらゆる精神病治療薬に反対する人と薬物療法に対してより穏やかな主張をもつ人とが対立し、議論は難航した (ENUSP 1991: v)。夜、ヴァンダーメールとジェスパーソンは、ホテルの部屋で分科会で出た意見をどのようにまとめるのかを話し合った (interview to Jespersen)。その結果として、出席者の共通点を22のリストにした上で、自分たちの立場を表明した声明とそれを実行するための行動指針が3点掲げられた。具体的にはその3点は、現在の精神科治療の変革に影響を与えること、精神保健体制のオルタナティブを作っていくこと、社会における精神医療を経験した人に対するあらゆる差別に抵抗していくことである (ENUSP 1991: v-vi)。

ヨーロッパ統合の見通しをテーマとした分科会3では、欧州経済共同体が設立された背景、並びに第1回総会の約2か月後となる1991年12月にはマーストリヒト

表 1. 第 1 回 ENUSP 総会の出席者¹⁾

国	参加者	組織	つながり	備考
オーストリア	Ernst Kostel	Selbsthilfegruppe Marktgassee/ SPK-Gruppe Wien		
	Jolanda Tilner	FAPI	FAPI はオランダの患者連 合と連絡していた	
ベルギー	Jan Kuypers	Kisjot	イタリアでの会議でジェス パーソンと会った	
	Jan Boeykens	Gubruikersoverleg		
	Robert Vermeulen	Vlaanderen		
デンマーク	Lisa Rahm	SIND	WFMH の欧州支部の会議 にてオランダの患者連合と 連絡していた	第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織が存在していた
	Frieda Kilde			
	Karl Bach Jensen	SIND/ Galebevaegelsen		
フェロー諸島	Svenning av Lofti	Sinnisbati		
フィンランド	Pirjo Mäkinen	MTKL		第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織が存在していた
	Maija Hyvärinen			
	Ulla Ylikotila			
フランス	Mm. Monique d'Esposito	Groupe Information Asile		
	Monsieur Loic le Goff	PSA		
ドイツ	Peter Lehmen	FAPI	WFMH の欧州支部の会議 にてオランダの患者連合と 連絡していた	
	Kerstin Friedrich			
	Matthias Seibt	FAPI/ Irrenoffensive Ruhrgbiet		
英国	Thomas Graham	Scottish Users Network		第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織 (National Advocacy Network、SSO など) が存在していた
	Robert Graley	National Advocacy Network		
	Andy Smith	Survivors Speak Out: SSO		
ギリシャ	Ioanna Katsouri	Movements for Legal Rights in the Mental Health Care		
オランダ	Hans van Vliet	Stichting LPR		オランダの代表としての参加 者は、van Vliet、van der Zee、 van der Male の 3 名 開催地の組織としての参加者 は、van der Male、van der Graaf、van Hoorn、van Abshoven の 4 名 第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織が存在していた
	Hans van der Zee	Stichting Pandora		
	René van der Male	Clientenbond in de GGZ		
	Wouter van der Graaf			
	Ed van Hoorn			
	Jan Dirk van Abshoven			
アイスランド	Anna Valgardsdottir	Gedhjalp		第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織が存在していた
	Dora Kristin Stefansdottir			
イタリア	Massimo Belfiori	Auto-Aiuto MassaCarrara		
	David Warner	無所属		
	Angelo Gigliotti	Arco Baleno/ Pappilon		
ノルウェー	Einfrid Halvorsen	NFMH		
	Bjorn Nils Haehre			
ポーランド	Pawel Pecak	無所属	スウェーデンの RSMH が 2 週間に一度支援をおこなっ ていた	
	Woyciech Grzywacz			
スウェーデン	Maths Jespersion	RSMH	WFMH の欧州支部の会議 にてオランダの患者連合と 連絡していた	第1回 ENUSP 総会の時点で大 きな全国組織が存在していた
	Hans Bergström			
	Carl-Axel Ringsparr			
スイス	Theresja Krummenacher	Les sans Voix		
	Peter Hefti	Irre am Werk		
	Christa Wyss	FAPI/ Irre am Werk	FAPI はオランダの患者連 合と連絡していた	
通訳	5 名			

条約が合意されようとしているという状況が確認された (ENUSP 1991: ix)。欧州経済共同体及びそれが改称された欧州共同体は、1990年代に障害者などを対象とした3つのプログラムを実施した。ヘリオス1(1988年から1991年まで)、ヘリオス2(1993年から1996年まで)、ホライズン(1994年から1999年まで)という名称のプログラムである (Geyer 2000: 189-191; Best 2005: 82-83)。分科会3では、ヘリオス、ホライズンどちらのプログラムに応募するとしても「リハビリテーション」及び／あるいは「就労準備」というテーマに関係すること、欧州経済共同体に非政府組織として認められることが必要だという条件が確認された。この時、すでにWFMHのヨーロッパ支部などいくつかの専門職が主導する組織が、苦痛をかかえる人々のための非政府組織として認められていた。このため、新薬の承認に自分たちが影響力を持つには出遅れてしまっているかもしれないが、専門職の資格化といった欧州経済共同体が取り組んでおり自分たちの利益に関わるその他のことについては、自分たちが代表になるべきであるとの意見が出された (ENUSP 1991: ix)。

翌26日の全体会議の場で、各分科会から報告がなされ全体としての意思決定がおこなわれた (ENUSP 1991: xi)。全体会議の場で、声明と行動指針に賛同するか多数決をとったところ、全員が賛同すると回答した。ほとんどの出席者が、合意に至ることは不可能であろうと考えていたため、この結果に全員が驚いた。このようにしてヨーロッパの組織を発足させることが決定した。ジェスパーソンは、最初から組織や規約を作ろうとすると様々な意見が出て混乱し合意に至らないので、まずは緩く開けたネットワークを作ろうとすることが重要であると述べている (interview to Jespersen)。ENUSPの会員については、利用者、顧客、患者などの立場で精神医療にかかわった「(元)ユーザー」のみの組織とするとの合意に至った (ENUSP 1991: 12)。

全体会議では、組織の構造についても議論された。オランダの患者組合のヴァンホーン (Ed van Hoorn) が、組織構造として「伝統的構造」と「逆構造」の2つを提案した。「伝統的構造」とは職員や理事の下に各国を位置づける組織構造であり、「逆構造」とは各国に課題を割り振りその下にそれらの課題グループをまとめる調整役がいるという組織構造であった。後者に支持が集まり、各国に課題を割り振ることになった (ENUSP 1991: 10-11) また、郵便物の発送などのためのヨーロッパ・デスクをオランダに設けることになり、オランダ、ベルギー、フ

ランスがそのための準備を課題としたグループとなった。その他の国に割り振られた課題は、ドイツ、オーストリア、スイスのグループには精神医療に関する宣言書 (psychiatric will) の作成および配布と神経遮断薬に関するパンフレット作り、イタリア、ギリシャのグループには精神医療のオルタナティブとしての協同組合、作業療法、治療的コミュニティに関する情報収集、アイスランド、フェロー諸島、デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドのグループにはニュースレターの発行と、デンマークかスウェーデンでの次回の総会の開催準備が割り当てられた。英国からの3名の参加者は、多くの国内組織がある中の3つの組織それぞれの代表として参加しており、それらの多くの組織からの負託を受けているわけではないと説明された⁹⁾。そして他国とグループにならずに1か国だけで、欧州共同体のプログラムや精神医療のよい実践、悪い実践についての情報収集をおこなうこととなった (ENUSP 1991: 7-8) また、当時、東欧諸国は東欧革命の直後で精神障害者の運動家どうしのつながりが作れておらず、第1回総会には2人のポーランド人以外に東欧の活動家がいなかった。このため、ポーランドと関係を持っていたスウェーデンには、東欧ネットワークを作るために東欧諸国と連絡を取るという課題も割り当てられた。また、ジェスパーソンはさらにボランティアでニュースレターの発行の担当を申し出た (ENUSP 1991: 7-8; interview to Jespersen)。それぞれの課題の調整委員会には、英国、イタリア、スウェーデン、ドイツ、オランダからそれぞれ1名ずつが選ばれた (ENUSP 1991: 7-8)¹⁰⁾。

6 第1回総会のあと

6.1 グローバルな運動とのつながり

ジェスパーソンは、イタリアでプレゼンテーションをしたときに出会った英国の精神科医たちに、1991年の秋にロンドンで開催された精神医療に関する会議に招待されていた。WFPUの初代議長を務めたニュージーランドのオーヘイガン (Mary O'Hagan) は、ウィンストン・チャーチル基金から支援を得て1990年に渡英していた。このため、オーヘイガンもこのロンドンでの会議に招待されていた。ジェスパーソンは、ここで数か月前にあたる1991年8月のWFMHの世界大会でWFPUが発足したという話をオーヘイガンから聞き、その場でニュースレターの購読費用を支払った。ジェスパーソンは、自分はヨーロッパで最初のWFPUの会員ではないかと述べ

ている (interview to Jespersen)¹²⁾。

ENUSPの第2回総会は、1994年5月にデンマークのエルシノアで開催された。同じ時期に、オーヘイガンが、スペインで開催されるWFMHの理事会に理事の一人として出席することになっていた。そこで、ジェスパーソンは第2回総会にオーヘイガンを招待することを提案した。ジェスパーソンがオーヘイガンの招待を提案したとき、ENUSPの会員は、「メアリー・オーヘイガンって誰?」「その聞いたこともない組織は何?」などと言って、オーヘイガンやWFPUの存在を信じようとしなかった (interview to Jespersen)。ここから発足当初、WFPUとENUSPはほとんど連携していなかったと考えられる。また、「障害者の機会均等化に関する基準規則」が、1993年に国連総会で採択された。この基準規則のモニタリングのための専門家パネルには、障害者の国際組織を含むことになっていた (United Nations 1993: chap.4)。この基準規則の特別報告者となったリンドクビスト (Bengt Lindqvist) は、スウェーデンの視覚障害者で国会議員であった。リンドクビストは、ジェスパーソンに専門家パネルに入ってほしいと依頼した。これに対してジェスパーソンは、自分ではなく精神障害者の世界組織の代表であるオーヘイガンが入ったほうがよいと答えた。このようにしてWFPUは、国連の活動に関わるようになり、その後の障害者権利条約の策定でも重要な位置を占められるようになっていったという (interview to Jespersen)。

6.2 第1回総会以降の変化

第1回総会は、WFMHのほかオランダ政府からも資金援助を得て開催された。それらの資金でヴァンダーメールは、ヨーロッパ・デスクの中で支払いを受けながらENUSPに関わるさまざまな仕事をするようになった。ヴァンダーメールは、当時、精神病院から出てきて仕事を持っておらず生活保護を受給して生活していた。入院する前は、2つの大学に通っていたため奨学金をもらっていたが、入院によりそれは打ち切られていた。そこで3年間、ヨーロッパ・デスクの事務局として働くことにした (interview to van der Male)。

ジェスパーソンとほかのRSMHの会員が協力して、1992年に2通のニュースレターを発行した。この2通のニュースレターの発行の後、第2回総会が開催されてジェスパーソンがニュースレターの担当者として再度選ばれた。最初の2通のニュースレターを発行した組織の名前は、ヨーロッパ患者組合ネットワーク (The

European Client Unions Network) となっている (The European Client Unions Network 1992a, 1992b)。第1回総会では、組織の名前についての議論が紛糾した (interview to van der Male)。このため、第1回総会の報告書とニュースレターが異なる組織の名前を使って出されたと考えられる。2通のニュースレターは、A4サイズ1枚の両面刷りで、第2回総会以降に出されたものと比較すると情報量が少なく、会員による投稿も掲載されていない。第1号のニュースレターでは、第1回総会の報告と、危機的状況に陥った時にどのような対応をしてほしいのかを事前に意思表示しておく精神医療に関する宣言書についての説明が、掲載されている。精神医療に関する宣言書の説明では、その考え方を最初に提案した人として、その反精神医学運動の主導者の一人とされることの多いサズ (Thomas Szasz) の論文 (Szasz 1982) が紹介されている (The European Client Unions Network 1992a)。第2号では、ENUSPがヨーロッパ内で実施しようとしている調査についての説明のほか、団体やイベントの紹介が掲載されている。その中にはWFPUの紹介もあり、WFPUがどのような目的で設立されたのかが説明されるとともに、さらなる情報が欲しい人はオーヘイガンと連絡を取るようにと連絡先が掲載されている (The European Client Unions Network 1992b)。

1994年に開催された第2回総会では、再び組織の構造が議題に上がった。そこでは、第1回総会のときに組織の代わりに意思決定する権力も義務もない機関として設置した各課題の調整委員会が、実際にはこの2年間意思決定機関のように機能してきたことが報告された。そして、ENUSPが、情報交換や交流のためのネットワークであればよいのならこのままの組織構造でもよいが、今後、組織として統一した意見を出し政策に影響を与えていくためには、意思決定機関をもった組織の構造に変えていく必要があるとされた。議論の結果として、ENUSPは組織の構造を変更し、議長や理事を設けることが決定した (ENUSP 1994: 42)。第2回総会で結成された組織の構造は、大きく変更されることなく現在に至っている。

7 おわりに

7.1 どこで出会ったのか

英国や米国の精神障害者の社会運動を対象とした先行研究は、運動の構成員の主な出会いの場所を精神病院やデイケア、また、1990年代以降はインターネットである

と指摘してきた。しかし、ENUSPの結成当初の構成員からは、このいずれもENUSPの結成のために重要だった出会いの場としては指摘されなかった。また、世界規模の障害者運動を対象とした先行研究は、その運動が医療福祉の専門職との合同の組織から独立した過程を明らかにしてきた。しかし、ENUSPは何らかのより大きな組織から独立したわけではなかった。また、ENUSPの結成当初、多くの会員がWFPUの存在を知らなかったことから、ENUSPの構成員はWFPUとは異なる出会いの場所を持っていたことが裏付けられる。ただし、WFPUの構成員が出会う場所となっていたWFMHの世界大会は、ENUSPの構成員にも利用されていた。

WFMHの世界大会以外にも、いくつかの精神医療関係のヨーロッパ規模の国際会議やネットワークが、ENUSPの構成員の出会いの場所となった。その中心の1つが、イタリアの精神医療改革に関する会議やネットワークであったといえる。1970年代以降、この改革は注目を集め、多くの人が見学に訪れたり情報交換のためのネットワークを結成したりした。インタビューからはイタリアを訪れた際にヨーロッパのほかの国の人と知り合ったという話が複数きかかれている。

その他にENUSPの構成員の出会いの場としてあと2つが指摘できる。1つは、政府の資金による他国の精神障害者運動の支援である。スウェーデンのRSMHがポーランドの精神障害者を支援していたという例がこれに該当する。もう1つは、精神障害者の運動どうしのつながりである。オランダの患者連盟の国際連絡部会がおこなっていた活動がこれに該当する。この交流がどのように始まったのかはわからないが、精神障害者の運動どうしが専門職の組織や会議などを経由せず直接に関係を持っていた場合があった。

7.2 どのように連帯したのか

先行研究は、精神障害者の運動の主張に注目してきた。主張が似ている専門職と連帯したり、本人の意思に反する医学的介入に関する主張の対立によって精神障害者の組織が分裂したりしてきたことが明らかにされてきた。これに対して、ENUSPは主張が似ていることを理由に結成されたのではなかった。第1回総会では、特に薬物療法をめぐる参加者の考える利益が一致していないことが確認されていた。しかし、ENUSPの結成には総会の出席者全員が賛成したのだった。ENUSPは、組織として統一した主張しない組織として発足しようとしたことにより、主張の違いによる分裂を回避できたと考えられる。

ENUSPは、実際の運用は必ずしもそのようにはならなかったものの、第1回総会の時点では意思決定機関を設けなかった。これにより、主張をすり合わせる必要性が減ったと考えられる。ただし、ENUSPは、WFMHのように精神保健に関心のある人なら誰でも参加できる開かれた組織として発足したわけでもない。「(元)ユーザー」と自認する人たちの組織であるという立場は明確にしていた。ここからENUSPは精神医療に関する主張ではなく、精神障害者本人という立場を連帯の基盤としていたといえる。緩やかなネットワークとして発足したENUSPが、どのようにして1つの組織としての構造を確立していくのかを明らかにすることは今後の課題としたい。

[謝辞]

本稿の調査は、日本学術振興会特別研究員奨励費(18J10684)の支援を受けて実施した。記して感謝申し上げます。

[註]

- 1) 本稿は、ヨーロッパをENUSPの会員が自分たちの共通項として見出したものであると考え、その地理的範囲について明確に定義しない。
- 2) McLean (2000) は、この対立における強制的な治療 (forced treatment) の具体的な内容については明かにしていない。しかし、一方があらゆる強制的な治療に関する法律に反対していたのに対して、他方はより多くの治療の機会が保障されるよう主張したとされる (McLean 2000: 825)。
- 3) この会議の主催者、参加者等の情報はわかっていない。
- 4) van Abshoven (1994) は、1994年10月7日から9日に開催された法律、倫理、精神医療に関する欧州委員会の会議でヴァンアブショーフェン (Jan Dirk van Abshoven) がヨーロッパの精神障害者運動について講演したものである。
- 5) この3か国の精神障害者の運動についてヴァンダーメールは、デンマークの組織は、「小さくて力があり、狂っていて創造的であるという点でオランダ [の患者連合] のようであった」という。また、ドイツの運動家は「いつもお互い争っているけれどもなくてはならない存在」であり、スウェーデンの運動は「世界一よく組織化されて設備の整った組織である」と評価している (interview to van der Male □ 内は引用者)。
- 6) この会議の主催者、参加者等の情報はわかっていない。
- 7) コーバスは無所属 (independent) の出席者として、その他の2名は同じ組織から参加している。この2名がどのようにENUSPの第1回総会の開催を知ったのか、また、この3名が総会の前からお互い知り合いであったのかはわからない。
- 8) 第1回総会の報告書の参加者のリストには42名分の名前がある。
- 9) 他の精神障害者組織から負託を受けていないという状況は、必

ずしも英国に特異なものではない。しかし、英国には当時、他国と比較して多くの精神障害者の組織があったと考えられる。ENUSPが英国の全国組織として紹介している3つの組織のうち2つの組織から第1回総会に参加している(ENUSP 1991: 5, 7, xii)。また、2007年時点でENUSPに認識されている国内の精神障害者の組織が30以上存在するのは英国とフランスのみである(Rose and Lucas 2007: 343)。

- 10) ジェスパersonは、この5名の中で英国のグレイリー (Roberta Graley)が第2回総会まで議長を務めたと述べている(interview to Jespersen)。
- 11) ENUSP (1991: xii-xiii) をもとに筆者が作成した。
- 12) WFPUの1991年8月の第1回目の運営委員会の会議の記録では、その会議にはオランダからヴァンアブショーフェンが出席したと書かれている(WFPU 1991)。

[文献]

- Barnes, Marian, 1999, "Users as Citizens: Collective Action and the Local Governance of Welfare," *Social Policy and Administration*, 33 (1): 73-90.
- Best, Shaun, 2005, *Understanding Social Divisions*, London: Sage Publications.
- Campbell, Peter, 1996, "The History of User Movement in the United Kingdom," Tom Heller, Jill Reynolds, Roger Gomm, Rosemary Muston, and Stephen Pattison eds. *Mental Health Matters: A Reader*, London: Macmillan Press Ltd, 218-225.
- Crossley, Nick, 2006, *Contesting Psychiatry: Social Movement in Mental Health*, Oxon: Routledge.
- Driedger, Diane, 1988, *The Last Civil Rights Movement*, London: Hurst & Company, New York: St.Martin's Press. (= 2000, 長瀬修(訳), 『国際的障害者運動の誕生——障害者インターナショナル・DPI』エンパワメント研究所.)
- The European Client Unions Network, 1992a, "News No. 1, 1992," Riksförbundet för Social och Mental Hälsa.
- , 1992b, "News No.2, 1992," Riksförbundet för Social och Mental Hälsa.
- European Network of Users and Ex-Users in Mental Health, 1991, "First European Conference of Users and Ex-Users in Mental Health," (2018年9月17日取得, <http://enusp.org/wp-content/uploads/2016/03/zandvoort.pdf>).
- , 1994, "The Second European Conference of Users and Ex-Users in Mental Health: The International People's College," (2018年10月21日取得, <http://enusp.org/wp-content/uploads/2016/03/elsinore.pdf>).
- Geyer, Robert R., 2000, *Exploring European Social Policy*, Cambridge: Polity Press.
- 伊東香純, 2018, 「障害者運動と消費者運動——精神障害者の世界組織の発足過程から」『立命館人間科学研究』37: 63-74.
- Jespersen, Maths, 2016, "The Personal Ombudsman: An Example of Supported Decision-Making," Jasna Russo and Angela Sweeney eds. *Searching for a Rose Garden: Challenging Psychiatry, Fostering Mad Studies*, Monmouth: PCCS Books, 134-141.
- Lehman, Peter, translated by Christine Holzhausen, 2009, "A Snapshot of Users and Survivors of Psychiatry on the International Stage," *Journal of Critical Psychology, Counselling and Psychotherapy*, 9 (1): 32-42.
- McLean, Athena Helen, 2000, "From Ex-Patient Alternatives to Consumer Options: Consequence of Consumerism for Psychiatric Consumers and the Ex-Patient Movement," *International Journal of Health Services*, 30 (4): 821-847.
- Mental Disability Advocacy Center, 2018, "Maths Jespersen," (2018年9月17日取得, <http://mdac.info/en/mathsjespersen>).
- Morrison, Linda J., 2005, *Talking Back to Psychiatry: The Psychiatric Consumer/ Survivor/ Ex-Patient Movement*, New York and Oxon: Routledge.
- Rose, Diana and Jo Lucas, 2007, "The User and Survivor Movement in Europe," Martin Knapp, David McDaid, Elias Mossialos and Graham Thornicroft eds. *Mental Health Policy and Practice across Europe: The Future Direction of Mental Health Care*, Berkshire: Open University Press, 336-355.
- Russo, Jasna and Debra Shulkes, 2015, "What We Talk about When We Talk about Disability: Making Sense of Debates in the European User/ Survivor Movement," Helen Spandler, Jill Anderson, and Bob Sapey Eds. *Madness, Distress and the Politics of Disablement*, Bristol: Policy Press, 27-41.
- Szasz, Thomas S., 1982, "The Psychiatric Will: A New Mechanism for Protecting Persons against "Psychosis" and Psychiatry," *American Psychologist*, 37 (7): 762-770.
- United Nations, 1993, "Standard Rules on the Equalization of Opportunities for Persons with Disabilities," UN Doc A/Res/48/96.
- van Abshoven, Jan Dirk, 1994, "History of Common Interests of the European Network of Users and Ex-Users in Mental Health."
- World Federation of Psychiatric Users, 1991, "WFPU First Committee Meeting, Mexico City," (2018年9月17日取得, <http://wnusp.rafus.dk/wfpu-first-committee-meeting-mexico-city.html>).

Process of Establishment of the European Network of User and Ex-Users in Mental Health

Kasumi ITO

Previous researches on social movements of persons with psychosocial disabilities mainly focus on movements in the UK and USA. They reveal that members meet at mental health institution or via the internet, and develop solidarity based on arguments. However, it seems difficult for continental-wide movements to meet and develop solidarity in the same way as the national movements. The purpose of this paper is to reveal how people in Europe developed the organization, European Network of Users and Ex-Users in Mental Health. To achieve the purpose I interviewed persons who were involved in establishment of the network and correct related documents. This paper reveals that one of the most important places for members to meet is Italy, where there have been radical revolutions in mental health systems from the 1970s. Then, people started the network as loose relationships because there were different arguments on mental health in the network.

Keywords : social movement, persons with psychosocial disabilities, users in mental health, Europe, solidarity